

んであきれ果ててしまった。  
霞ヶ浦を救おうという我々の提案も、参考意見として  
：：：という但し書をつけられて、「継続審議」という  
ことになってしまった。

「継続審議」とは、法律的にどういふものかわからな  
いが、てつとり早く言えば「めんどうくさいから後まわ  
しにしよう」ということなのではないかと疑ってみる必  
要がありそうな気がする。

市議会は、市にとって一番大事なことをあとまわしに  
して、何を審議するというのだろうか。我々の提案した  
霞ヶ浦の浄化に関する十一項目の提案も、政治家の目か  
ら見ると、ミソもクソも一緒にしたとんでもない素人提  
案ということなのかも知れないが、死にかけたものを助  
けるのに、今さらイデオロギーがどうのこうのと、嫁し  
ゆうとの対立みたいなことを繰り返している時間はない  
と思うのである。

医者のな発想なのかも知れないが、死にかけた病人を  
救うのに、その病人にとって、悪いと思うことは全部や  
つてはいけないと考えること：：：そんな単純で明解な発  
想があつていいじゃないかと思う。いや逆にいえば、イ  
デオロギーや、党や、派閥や保償問題や、犬のオンシッ  
コみたいなことでクチャクチャ、やっている限り、いつま

でたつても霞ヶ浦はよくならないのではないか、単純す  
ぎるけれど、単純な発想がまかり通らない限り、霞ヶ浦  
は救えないのではないか：：：と思うのである。

市議会の紹介議員のことで、色々と思いがけないベン  
キョウをさせていただいた我々は、今度環境庁に提出す  
る請願書の紹介議員は、茨城県出身の国会議員全員にな  
つてもらおうじゃないかということになってしまった。

全員が紹介議員ならば、うらみつこなし、誰がどうの  
このネコもヘチマもヘッタクレもあつたものではない。  
ケンツクをくわされる度合いも少くなるというものであ  
ろう。

茨城県一区、二区、三区選出の衆議、参議院議員は、  
全部で十六名である。うちわけは自民党十一名、社会党  
四名、無所属一名。

これだけの人数のサインとハンコをもらうのは大変な  
仕事であるけれど、佐賀さんとその友人のN氏の、若さ  
と誠意で何とか実現することが出来た。

水くきのあとうるわしい達筆で、それぞれの名前の書  
かれた十六名の署名入りの請願書を見た私たちの感激は  
一しおであつた。いづれ劣らぬ、そうそうたるメンパー  
素晴らしい顔ぶればかりなのである。

これだけの人材を国会議員として送り出している我々